

「くまの木」ヒトとムシの楽園プロジェクト

会報ムシプロ14号

2018年5月



カワトンボ (カワトンボ科)

目次

1. 4月活動報告 2～3
2. ムシプロだより 4～5
3. 自然の楽しみ方 (春) 6～7
4. 事務局より 8
- 今月の表紙 8

1. 4月7日（土）の活動報告

スタッフ5名を含めて14名で第二ビオトープと花壇の整備を行いました。

■ 第二ビオトープの整備

乾燥化が進み、水深が浅くなってきましたので、ビオトープの東側、南側を中心に雑草をとり水が流れるように掘りあげました。

水を多く含んだ泥と深く根をはった雑草に悪戦苦闘しながらも予定どおり作業を終了しました。



←作業前の状況、水深が浅くなっている。



←作業後の状況、雑草をとり、水深と水の流れを確保した。

■ 花壇の整備

ブッドレアの大きく伸びた枝の剪定と冬枯れとなったままのフジバカマの茎を刈り取りました。ブッドレアについては、オオカマキリの卵のついた枝を残すように慎重に作業をしながら強めに剪定を行いました。また、花壇では、去年の秋に種をまいたレンゲが大きく育ち多くの花を咲かせていました。



整備前の花壇



整備後の花壇



レンゲの花

■ 早春の雑木林でカタクリの観察

くまの木から旧通学路を通過ってカタクリが群生する雑木林まで行きました。

雑木林では、カタクリがシカの食害にあい、花は数株しかありませんでしたが、ルリソウが可憐な花を咲かせていました。また、この時期しか見ることのできない山野草（イチリンソウ、ニリンソウ）やビロードツリアブを観察することができました。



雑木林前のお花畑



ルリソウ



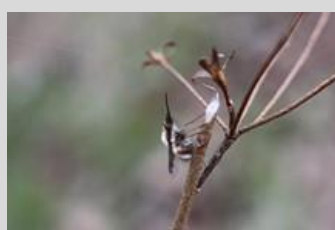
ルリソウ



イチリンソウ



ニリンソウ



ビロードツリアブ

■ その他、観察したムシたち



エノキの根元で落ち葉拾い？

雑木林の地主さんの庭にはオオムラサキを呼ぶためにエノキが植えられています。地主さんの許可をいただきオオムラサキの幼虫探しをしました。

エノキの根元の落ち葉をめくるとすぐにオオムラサキの幼虫、ゴマダラチョウの幼虫が見つかりました。栃木県南部以南では、幼虫たちは冬眠から目覚めて活動を始めていますが、ここでは未だ冬眠中でした。そのうちの一頭は声をかけ、顔をパチリと撮りました。とても可愛い顔が撮れました。夏にまた訪れたいと思います。



2. ムシプロだより

牧野 匡博さん・航さん・結さんの近況

一昨年に息子がスポーツ少年団（ミニバスケット）に入ってからというもの、休日の活動はそちらが主体になりました。そのため、最近は「いきもの」と触れ合う時間がやや少なくなってきました。

そこで「いきもの」に関する近況報告というよりは、これまでの関わりを記載したいと思います。



幼少から息子は昆虫が好きでした。幼稚園時代は家の近所で蝉採りをたくさんしました。小学校に入ると近場でNPO法人主催の自然活動に参加するようになり、いろいろな知識を得ました。この頃は毎年「今年の目標」を決めて昆虫採集にさらに精を出すようになりました。息子が「オニヤンマを一人で捕まえたとき（写①）」、「ミヤマクワガタをたくさん捕まえたとき」はこれまでにないほどの喜びでした。大きなショウリョウバッタを怖がっていた娘（写②）も一緒に虫取りをするようになりました。



(写①)

そんなとき「ムシプロ」と出会いました。山あいの小学校での活動、そして優しいスタッフの方々とのふれあいは、これまでの活動をさらにグレードアップするものでまさに日常では経験できない貴重なものとなっています。

厚みにムラがある窓ガラス、ぎいーぎいー音がする廊下は、特に印象深いものです。

「いきもの」とのふれあいも「昆虫」の枠から飛び出して「夜ライトを照らして観察したモリアオガエル」や「ずぶ濡れで捕まえた魚達（いとも参加して写真③）」などさらに広がって、近場では得られない体験をさせて頂きました。

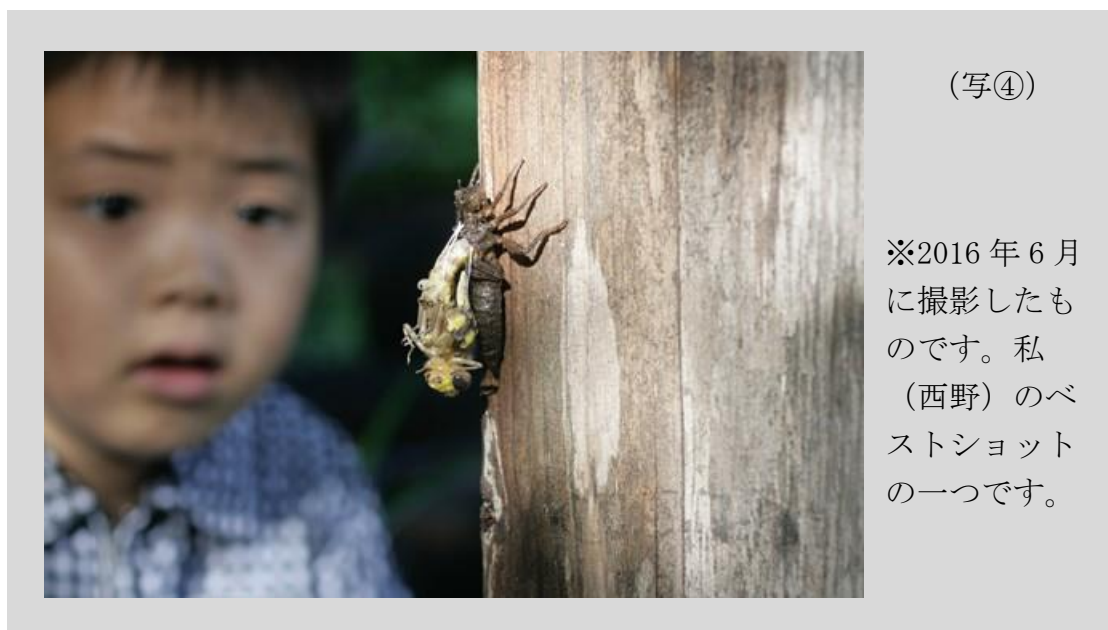


(写②)



(写③)

また、「羽化途中のオニヤンマ（写④）」を見たときは家族皆感動しました。



(写④)

※2016年6月に撮影したものです。私（西野）のベストショットの一つです。

話は変わって、西野さんが妻方の「じいじ」と雰囲気が似ていることも、子供たちが「くまの木」活動により一層親しみを感じる（写真⑤）大きな要因です。



(写⑤：西野さんと)

「西野さん、そんなご年齢でもないのに
すいません。」

今現在は、コクワガタの幼虫及び成虫、ノコギリクワガタ幼虫の飼育をしています。

また、昨夏のカブトムシは11/30まで生き続けました。

（我が家の記録です！）

今後も都合が合う際はムシプロ」に参加したいと思います。

(写真・文 牧野 匡博)

3. 自然の楽しみ方（春）

■ 雑木林の春：新緑狩り（彩の変化を愉しもう）

一進一退を繰り返していた寒暖のつりあいが暖かさのほうに傾き始めると木々の芽吹きが始まる。木ごとに異なる緑の微妙な色彩に「こんなにたくさんの種類の木があったのか！」とあらためて気づかされる。

雑木林の中を歩いているとなぜか？うれしくなり、心が高ぶるのである。これは、木々の芽吹きのエネルギー、鳥の囀り、ムシの羽音を感じているからかもしれない。自分も自然の中（地球）で生きている生き物であると実感する。



雑木林の中心は、コナラ、クヌギであるが、特にコナラに注目したい。コナラの芽吹きの際の葉の色は「銀緑色」をしていて遠くから見ると白く輝いている。やがて葉は、鮮やかな緑に変化していく。白く輝いて見えるのは、葉に細かい毛が生えていて、太陽の光を反射しているからだ。

個性派揃いの木々の花



ヤナギ



クヌギ



ハンノキ




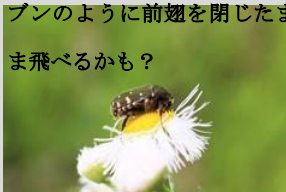

アケビ

■ 自然観察のヒント：

「おや？」を「なるほど！」に変えてみよう。

自然、ムシ、鳥、獣、植物のふれあうには少しコツがあります。
山、海、雑木林、水辺、庭、公園でためしてみてください。

ふれあう方法	ふれあうコツ、身につく感覚
ゆっくり歩く	静かに、大きな音を出さないように
見る	遠くから見る、近づいて見る、大きくして見る 上から、下から、前から、横から角度を変えて見る 時間、季節を変えて続けて見る
においをかぐ	花、葉、木のにおい、空気、土、水のにおい ムシ、獣のにおい
さわる	硬い、やわらかい、強い、弱い、すべすべ、ざらざら
味わう	果実、水、イナゴ、ハチの子、樹液、蜂蜜 ※何でも口に入れないこと、経験者や専門家の指導のもとで行う
聞く	静かに聞く、耳に手を添えて大きくして聞く ムシの声（セミ、コオロギなど）、鳥の鳴き声、動物の動く音、葉の揺れる音、風、水
遊ぶ／取る	アミを使ってとる、わなを使ってとる おじいさん、おばあさんに昔遊びを教わる
飼う	飼い方の本を参考にする 活かすのに必要な条件を探す、試す 自分で工夫して楽しむ
撮る、書く	カメラで記録に残す、ノートに記録を残す

<p>おや？ コアオハナムグリだ</p>  <p>横から見た</p>	<p>→</p>	<p>まあ～ 前翅の横がえぐれている。カナ ブンのように前翅を閉じたま ま飛べるかも？</p>  <p>カメラで時 間を止めて みた</p>	<p>→</p>	<p>なるほど！ 前翅を閉じたまま飛んだ。</p> 
---	----------	---	----------	---

(写真・文 西野 孝法)

4. 事務局より

今年第1回活動大変お疲れ様でした。予定通り花壇、ビオトープの整備を行うことが出来ました。今回の様子は、以下のアドレスをクリックしてパスワードを入力してご覧ください。

<https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/FErSTTQyKGM>

パスワードは、20180407 です。

会報の「表紙」と「自然の楽しみ方」で紹介した画像をイメージゲートウェイに登録しています。Word に貼りつけてある画像より綺麗です、ご覧ください。

アドレスは以下のとおりです。パスワードは、必要ありません。

<https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/DMCYuTBGLSE>

画像はダウンロードできます。

2018年5月1日発行

発行： くまの木ヒトとムシの楽園プロジェクト

編集責任者： 西野 孝法

〒262-0026 千葉県 千葉市 花見川区瑞穂3-3-26

TEL: 090-9327-5606

Eメール：harukan@ac.auone-net.jp

今月の表紙 カワトンボ (カワトンボ科)



カワトンボのオス（未成熟）である。カワトンボは、個体の変化が大きいことで知られている。未成熟のオスの体は、表紙の写真のように青い金属光沢の色をしているが、成熟すると白い粉をふいたようになる。翅の色は、透明、橙色、褐色なものさまざまである。

春に山間部の河川で見られる。オスは、細い流れの付近の葉や枝にとまり過ごす。

5月中旬、葉の上にとまっていたカワトンボは、小さなムシが飛んでいるのを見つけるとパツ！と飛び立とムシをくわえて、元の居た場所に戻り、モグモグと食べていた。

(写真・文 西野 孝法)